



北海道の労働と福祉を考へる会 会報

# ともに生きる

2011年9月10日発行（第23号）

## ～傍らを あるきながら～

今号から始まった「過去に労福会の活動を担った方たちに、当時の労福会の様子や思い出を語ってもらおう！」というこのコーナー。第1回目は、1999年から2005年まで副代表を務め、現在は広島大学の教員である佐々木宏先生に労福会の活動を通して得たことについて語ってもらいました。

### 人の数だけ貧困の「顔」がある

広島大学総合科学部 佐々木宏

99年から05年まで副代表をつとめていた佐々木です。現在は広島大学の教員として社会福祉と貧困をテーマに研究や授業をしています。今回は初期の労福会の様子、会の思い出等をというリクエストを受けたのですが、書きたいことが盛りだくさんで書き切れません。そこで「労福会から教わったこと」一点に絞ってお話したいと思います。

99年の頃、僕は途上国の貧困問題を研究テーマにする大学院生で、日本の貧困問題にタッチしていたわけではありません。実は、会に関わったのは当時の師匠(杉村宏先生)から「手伝ってくれ」と言われたためで、そう強い問題意識があつてのことではありませんでした。しかし、広島転勤までしっかり関わることになったのは、刺激的な発見が次々にあったからです。素人同然で始めたホームレス支援は驚きの連続でした。もちろん耳学問では色々と知っていたつもりですが、会の活動は数字や文字以上の迫力をもって色んなことを教えてくれました。

中でも一番の宝物は貧困問題に向き合う時の構えを知ったということでしょうか。それは問題を考える時、当事者と接する時に「ホームレス」「生活保護利用者」といったある種の括りではなく「〇〇さん」という人に関心を寄せるという姿勢です。そんな当然のことと

思われる人もいるかもしれませんが、僕には新鮮な発見でした。研究者には括りで物事を考える習性(社会や人間一般の仕組みの解明が仕事なので悪いことではないけれど)があり、社会や人間のことを考える時に「〇〇さん」という見方はあまりしないものです。しかし、会の活動、とくに生活保護の同伴活動で、貧困に限るとこの見方がとても大切であることを知りました。貧困研究の教科書にある「貧しさは人の幸せ(Well-being)を損なう」という言葉の意味を実感したといっても良いかもしれません。同伴は、厄介な人も含めて様々な個性、それから一人ひとりの喜怒哀楽とお付き合いする作業です。この経験は人の幸せとは如何に多様かつ個性的なものなのかを気づかせてくれました。

人の数だけ幸せがある、裏返せば人の数だけ貧困の「顔」があることへの気づきは、今でも僕の研究に影響を与えています。最近、出版という形でまとめたインドの貧困家族の子ども研究は一風変わったものとなりました。インド研究は通常、カースト集団や貧困層といった括りを軸に社会を描くのですが、僕は「〇〇さん」を出発点に議論を進めています。まさに労福会で得た三つ子の魂の賜物ですね。

現在、会に関わる皆さんもまた、それぞれ宝物を発見されていることと思います。まだ見つけていないという方がいれば、きっとこれからでしょう。今後も労福会に関わる人々にとって「宝の山」のような会であり続けますように！

## ホームレス支援全国ネットワーク

第5回総会報告 中西 将人

去る6月4日、大阪釜ヶ崎で開催されたNPO法人ホームレス支援全国ネットワーク（以下全国ネット）第5回総会に参加してきました。

全国ネットは、ホームレス自立支援法施行から5年目の07年、見直し作業が国レベルで進む中、全国の支援団体の中から、現場の声を国に届け、効率的な施策の制定と運用を提言しようという目的で発足しました。かつて、法制定のために連携し提言や行動を行ってきた北九州、大阪、東京の支援団体が主体となり「ホームレス支援全国ネットワーク」の設立と各地の声をまとめた提言発表を全国の支援団体に呼びかけたのです。その後09年度にNPO法人格を取得し、今年6月現在、北海道から沖縄までの全国63団体・10個人により構成されています。理事長はNPO法人北九州ホームレス支援機構の奥田知志さんです。当会は設立時より参加し、発表や報告を行っていますが総会への参加は08年の第2回総会以来となりました。また毎年最低一度は研修会が行われていますが、地理的条件もあり（昨年は北九州）残念ながら当会からはなかなか参加できていません。

さて総会は、実出席31名委任出席27名、合計58名の出席により成立しました。

議案は以下の通りです。

1. 2010年度事業報告
2. 2010年度決算報告および監査報告
3. 2011年度活動方針（案）
4. 2011年度予算（案）
5. 被災地支援共同事業計画
6. その他（各種事業報告）

### 1. 2010年度事業報告について

昨年度は以下のような事業が行われました。

#### 1) ホームレス状態にある人々に対する応急援護施策に関する事業（震災支援事業）

東北地方の被災地で、グリーンコープと共同して、

全国ネット加盟団体であるワンファミリー仙台、仙台夜回りグループなど、支援活動を行っていた団体に支援物資配送やスタッフ派遣を行った。ドイツや台湾をはじめとする海外からも、この事業への寄付金が多く寄せられた。

#### 2) 広義のホームレスの可視化と支援策に関する調査研究事業（広義のホームレス調査）

厚生労働省からの委託を受けて、生活保護受給者、ホームレス自立支援事業、地域生活・就労支援の実態把握を目的に実施した。全国の100の野宿者支援団体、1303の福祉事務所の協力を得て合計6829人のケースを調査した。

#### 3) 地域生活安定化パイロット事業

居宅後の地域生活支援に関するパイロット事業であり、市川ガンバの会、仙台ワンファミリー、プロミスキーパーズ（沖縄）の3団体が行っている。事業内容は、居宅設置、保証人提供、継続的生活の3つの支援で、継続支援の必要性の証明、継続支援メニューの明確化（どのようなメニューが必要か）、支援対価の基準作り（それぞれのメニューの費用試算）を目的としている。

#### 4) 無料定額宿泊施設の在り方に関する研究事業

昨今悪質な事業者の存在が社会問題化している無料定額宿泊施設の運営に関するガイドライン作成を目的としている。

#### 5) ホームレス支援人材育成事業

野宿時から居宅後のアフターケアまで幅広く支援を担うことができる人材育成のための研修会実施システムの作成を目的としている。

#### 6) ホームレス支援専門員育成プログラム

ホームレス支援人材育成カリキュラムおよび支援マニュアルの策定を目的としている。

### 3. 2011年度活動方針（案）について

今年度は2012年に期限を迎えるホームレス自立支援法のその後を見据えた政策提言および自立支援施設に関するガイドライン提示を課題として、以下のような事業を行うことが提案され承認可決されました。

#### 1) ホームレス状態にある人々に対する応急援護施策に関する事業（震災支援事業）の継続

グリーンコープ、生活クラブとの三者協働事業

で、支援物資提供・人的支援・漁業復活支援（ソーシャルビジネス）・仮設住宅入居者へのパーソナルサポート事業支援の4つの事業を行う。

## 2)広義のホームレスの可視化と支援策に関する調査研究事業の継続

## 3)地域生活安定化パイロット事業の継続

## 4)ホームレス支援スタッフ育成システム開発提案についての実施調査

この他の各議案もそれぞれ承認可決されました。

全国ネットは居宅後の支援に力点を置いていますが、今年度も広義のホームレス調査やパイロット事業にその方向性が表れていたと感じました。なお議案の詳細については総会当日まで知ることができなかったのですが、予め会として議案に関する方針を決定することはできませんでしたが、全会一致で問題なく承認され、当会としてもすべての議案を承認しました。

8月9日、今回で102回目となる「道北三愛塾」に参加しました。このプログラムは、1950年に初代酪農学園学長の桶浦誠先生の提唱で、江別市野幌において始められた農民の学習運動であり、デンマーク農業再興の原動力となった「三愛精神：神を愛し、人を愛し、土を愛する」に基づいて現在では名寄などで開かれているものです。学習内容は、人間社会に関すること、家庭生活のことなど、農業に生きる方たちにとって欠くことのできないものからなり、話し合いによる相互学習を重点に、農民の連帯をつくり出すことを目標として行っています。

# ホームレスと農業をつなげて

黒森理恵子

今回のテーマは「さらなるつながりを求めて～支援の現場から学ぶ～」というもので、人や社会とのつながりを断ったと言われるホームレスについて焦点をあてて、考えてみようという内容でした。そこで、札幌のホームレスの現状や支援活動の簡単な報告をしてほしいと労福会が依頼を受け、当会の活動について、またそれを通じて私が感じたことなどをお話させていただきました。そしてこのプログラムのメインイベントである、36年間ホームレス支援を続けてきた松本普さんの講演会が行われました。松本さんは現在、日本聖公会修道士で笹島人権センター代表世話人をされています。この講演では、名古屋で行ってきたホームレス支援の様子や現場についてお話を聴くことができました。現在、名古屋では路上生活を余儀なくされている方が約700名いるそうです。これは札幌の約7倍です。この大人数に提供する炊き出しを支えるのが、「NPO法人セカンドハーベスト名古屋」というフードバンクです。フードバンクとは、包装の傷みなどで品質に問題がないにも関わらず、市場で流通できなくなった食品を企業から寄付を受け、生活困窮者などに配給する活動や団体のことを意味します。この講演後、農家の方たちは、名寄で作った自分たちの農作物の中で、形が少し歪なだけで規格外とされ、売り物とはならずただ捨ててしまう野菜や果物たちを、生活困窮者や札幌のホームレスの方のために提供できないかと熱心に議論されておりました。名古屋のフードバンクのように北海道でも、ただ捨てる運命にある規格外の農作物をうまく利用する方法はないのでしょうか。その背景には、流通にかかるコストについてなどいろいろと問題が生じてくるとは思いますが、いつの日かこの生産者と消費者との間で生じている矛盾に対する方策が見つかることを願っております。



## 札幌司法書士会

# 司法書士って？

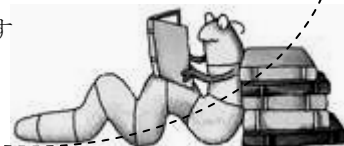
### 司法書士 下村尚也

司法書士と言っても、どういう仕事をしているのかイメージが湧かないかもしれません。しかし、司法書士にできることは相当広いということをご存知でしょうか。家を買うとき、相続の問題が生じたとき、借金を返せなくなったとき、親族が認知症になってしまい代理人を選任しなければいけなくなったとき…、様々な相談に応じることができます。

司法書士にとって大きな転機となったのは、平成14年に司法書士法が改正されたことです。改正により、簡易裁判所でできる範囲の訴訟や交渉等を行う権限が与えられました。業務範囲が広がると同時に司法書士には大きな社会的な責任や役割を課せられました。その流れの中で札幌司法書士会は社会的弱者への法的援助等に取り組む社会問題対策委員会、多重債務問題等に取り組む消費者問題対策委員会、小中学校で法律に関する授業を行う法教育委

# もうそろそろ

協力連携いただいている団体を  
順にご紹介します



員会など17の委員会を組織し、各委員会が皆様の声に応えられるよう努力しているところです。

私は社会問題対策委員会にて、活動をして参りましたが、家のない方々は借金、生活、病気、心…、多くの悩みを抱えております。司法書士で協力できるのはほんの一部かもしれませんが、労福会の皆様と協力しながら一人でも多くの方に笑顔になって欲しいと思い活動をしております。労福会の皆様には頭が下がる一方ですが、私達も負けぬよう努力したいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。より支援の輪が広がることを切に願っております。

## 「社会問題対策委員会とは？」

社会問題対策委員会とは、札幌司法書士会に設置された組織です。司法書士は、一部の事件について訴訟代理権が与えられ、総合法律支援法において隣接法律専門職者として位置づけられるなど、法律の専門家としての地位を確立しています。今後の司法書士は、単に登記を行う者ではなく、国民の人権擁護、社会正義の実現などにも貢献すべきことが求められていると考え、司法書士として社会問題の解決、改善に貢献する方法を検討することを目的として、平成16年に設置されました。現在の委員会のメンバーは8名です。

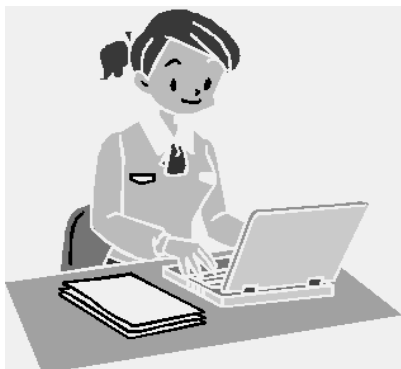
具体的な活動としては、まずは基本的人権のほとんどが保障されていない路上生活の方たちへの支援活動に取り組むこととし、以前より路上生活者への支援をしている「北海道の労働と福祉を考える会」様のご協力をいただき、年2回の炊き出し及び法律相談を行い、生活保護の申請支援などの活動を行っています。

このほか、生活保護問題に関する電話相談会、貧困問題に関する市民公開フォーラム、会員向けの福祉制度等に関する研修会などを行っています。

また委員会とは別の部門ですが、相談事業部では一般的な法律相談を無料で行っていますので、011-272-9035 にお問い合わせいただければ、日祝日を除いた任意の日に1時間の相談を受けることができます。

# 教えて！安東さん！！

～司法書士、安東さんが解りやすく教えてくれる福祉に関する Q&A～



Q： 路上生活でも、生活保護の申請ができますか？

A：「はい、できます」

わたしたちはだれでも、病気やケガ、不景気で失業したりなど、いろいろな理由で生活に困ることがあります。生活保護は、国が、生活に困っている人に、最低限度の生活を保障する制度で、一定の条件をみたせば、だれでもうけることができます。若くても、住民票や家がなくても、生活保護の申請をすることができます。

ちなみに、札幌の場合、55 歳の人が家賃 36,000 円のアパートでひとり暮らしをすると、生活保護費は、1 か月 113,940 円になります（11～3 月は 23,250 円プラスされます）。お給料や年金などの収入がある人でも、この金額より少なくても、すぐに利用できるような財産がなければ、足りない部分について生活保護をうけることができます。

申請のしかたですが、家のない人の場合、今いる所から近い福祉事務所（区役所にあります）で申請をします。「水際作戦」といって、役所でしぶられることもあります。申請を受けつけないのは法律違反です。「申請します！」と、はっきり伝えましょう。

生活保護費は、申請した日からの分が出ます。ただし、路上生活のままだと、出してもらうことができません。そこで、住む場所を決める必要があります。

住む場所を決める方法としては、だいたい次のものがあると思います。

- ①「救護施設」（きゅうごしせつ）にいったん入る（それからアパートをさがす）。
- ②事情をわかってくれる不動産屋さんで、すぐに入れるアパートをさがす。
- ③支援団体の施設などをいったん利用する（それからアパートをさがす）。
- ④具合がわるければ、入院する（退院するときにアパートをさがします）。

このほか、冬場だと、カプセルホテルに宿泊して、アパートをさがすこともできます。アパートが見つかった場合、アパートを借りるためのお金は、生活費とは別に、もらうことができます（上記②の場合も）。金額は、138,000 円以内で、敷金・礼金・仲介手数料・火災保険料などが出ます。ただし、水まわり清掃料など、出ないものもあるので、ちゃんと確認をしましょう。その他に、ふとんは 16,900 円以内で（実際には、ふとんを現物でもらうことが多い）、冷蔵庫・炊飯器・食器などの生活に必要な「家具什器」（かぐじゅうき）のお金は 24,900 円（特別の事情があれば 40,000 円）以内で出してもらうことができますので、アパート生活をはじめるにあたって必要なものがあれば、相談しましょう。

次回は、生活保護をうけはじめてからの問題を取りあげたいと思います。



## タカダヨウタロウの 「もうどっか行くしかない！」

今月号の会報から、僕がどっか行ったときの体験記を連載していこうと思います。僕はよくフラッとどこかへ行ったりするのですが、その旅先でふと”路上”について思いをめぐらすような時があります。今回は第一回目として、今年のGWに行った乳頭温泉郷（秋田県）での経験を選びました。

（高田）

### 第一回「乳頭温泉郷」(2011年5月)

今年のGWに乳頭温泉郷に寄った。

この温泉郷は、秋田県仙北市、田沢湖から30分ほど車で行ったところにあり、7つの宿を総称して乳頭温泉郷と呼ぶ。秘湯として全国的に有名で、電線電信柱等はなく、どこの宿も自家発電だ。

7つの宿のうち、僕は他の6つの宿とは別の沢沿いの、最奥部に位置する宿に行った。道路は途中までコンクリで整備されているが、途中から舗装されていない道に変わる。僕がこの宿に着いたのは夕方の遅い時間だった。しかし、いざ着いてみると日帰り入浴の時間はとうに終わっていて、明日の午前10時まで開放できないと言われたのだ。後々、地元の人にこのことを話すと、宿泊客のふりをして入ればよかったのに、と言われたのだけれど、その時の僕は素直に「そうですか…」と引き下がり、宿の外で野宿し、翌朝まで待とうと考えた。しかし、寝る時間にはまだ早かったのでその辺をブラブラしていると、誰かが通報したのか従業員が飛んでやってきた。確かに、こんな山奥で泊まり客でもなさそうな奴がウロウロしていたら不審に思うだろう。「何をしているのか」と尋ねられたので、「日帰り客なんですけど、この時間はもう入れないみたいなので、この辺で野宿し、明日の朝まで待とうと思うのですが」と答えると、それは迷惑だからやめてほしい、最近はこそ泥も出ているから、と言われた。僕がこそ泥をするような顔に見えるか？と言いたかったが、「だったら、せめて敷地の外で寝かせてください」と頼んでみた。しかし、「それもダメ、申し訳ないけれど、山を下りて頂きたい」と突っぱねられた。もっとも、敷地の外は土がむき出しの道路とブナ林しかなく、寝袋しか持ってない僕にとっては、野宿できるような場所

ではなかったのだが。

僕は泣く泣く下山することにした。辺りは真っ暗だった。今までも夜の山道を何kmも歩いたことはあるが、電灯もない、自動車も全く通らない、本当に真っ暗で静寂な夜の山道をずっと1人で歩くというのはこれが初めてだった。しかも、地元の人から、この辺ではツキノワグマが出ると聞いていた。

……確かに、日帰り時間を調べずにやって来た僕が悪い。宿側からしても、僕のような得体のしれない人間が夜ウロウロしていたら気持ちが悪いただろう。しかし、こんな真っ暗な中、下山してくれ、とはよく言えたものだ。あの時の従業員が僕に向けた眼差し、あれはひどかったよ、と僕は思った。

しかし、この従業員の対応が結果的に僕に幸運を運んでくれた。1時間程歩いただろうか、1台の車が後ろからやって来た。僕は車をとめる勢いでヒッチハイクした。すると、僕が立っていたポイントからしばらく先で止まった。そのドライバーはなんと別の宿の支配人だった。事情を話すと、この近くで、ロッジを経営している友達がいるから、紹介してくれると言ってくれた。「宿泊費は君が交渉してね」とも。どっちみち野宿するには寒く、山の中だったので、2000円くらいで泊まれたらいいなと期待してそのロッジに行ってみると、経営者である山岡さんというおじさんが本当に気のいい人で、何とタダで泊まらせてくれるという。しかも、凄く豪華なご飯まで食べさせてくれた。おまけに美人な娘さんまでいた。あの真っ暗な山道から何という変わりようだ！僕は運が良かった。

こうして僕は勝手にロッジの宣伝部長となり、ここで宣伝させてもらおう。もし、乳頭温泉郷に行くことがあったら、『ロッジ 山の詩』に泊まろう！

# 事務局だより



## ■助成金が通りました！

今年3月に申請した独立行政法人福祉医療機構による助成金が、無事に内定をいただくことができました。書類作成等に当たってくださったプロジェクトチームの皆様、本当にお疲れ様でした。これにより、従来の事業も然ることながら、新たな試みも行ってまいりますので、どうぞご期待下さい！

## ■労福会の活動に参加してみませんか？

ここ数年の労福会は、慢性的な人手不足が課題となっております。もしこの会報を読んで、少しでも労福会の活動に興味を持って下さった方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。お待ちしております！

## ■8月の運営会議報告

8月6日(土)の夜回り前に、毎月定例の運営会議が行われました。議題としては、8月27日に行われる炊き出しの担当者を決定したり、散髪やテーブルのレイアウトについて考え、議論したりしました。また、エルプラまつりの一環である「活動発表展」にも参加させていただくこととなりました。なお、エルプラまつりにつきましては、9月10日(土)10時～16時にエルプラザにて開催されます。お時間がある方は、ぜひお越しください。

(黒森 理恵子)

## 編集後記



### ●新メンバーが加わりました！

前号発行の際に結成された編集チームに、工藤浩美さんが新たに加わりました！編集会議の際に持ってきてくれた手作りシフォンケーキは、とても美味しかったです。そんなお料理上手な工藤さんを迎え、今後も編集チーム一同、会報発行に向けて精一杯頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしく願います。

### ●てんやわんやの発行作業

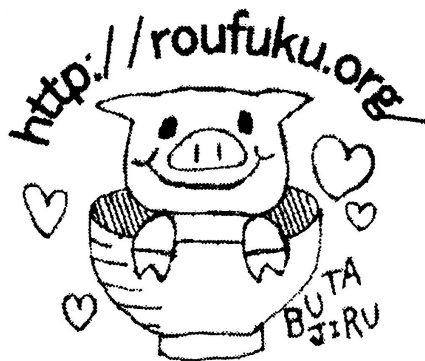
今回、第二十三号を発行するにあたって、六人で構成されている編集チームのメンバーのうち二人が、留学や旅に出してしまうとのことで、「ちゃんと発行できるのだろうか」と不安な気持ちでいっぱいでしたが、なんとか無事に発行することができました。本当に良かったです。原稿を快く引き受けてくださった方々、ありがとうございます。また、編集チームの皆さん、お疲れ様でした。そして、読者の皆さま、読んでくださって誠にありがとうございます。次号、第二十四号は十二月に発行予定です。お楽しみに！

### ●タイトルロゴ模索中！

何回か『ともに生きる』のタイトルロゴをいろいろと試しています。感想や新たなアイデアなどございましたら、ぜひお聞かせ下さい。

(黒森 理恵子)

## インフォメーション



炊き出しと  
夜まわりの  
お知らせ

※ 炊き出しも夜まわりもボラン

ティアを募っています。  
ご参加いただける方は、事前

■次回夜まわりは 9月17日(土)です  
毎月第1・第3土曜日に行っています。

集合は 20:00、

札幌駅南口アピアドーム

解散は 22:00、大通地下ビッ  
セ前

## 事例学習会のお知らせ

■9月13日(火) 18:30~  
■市民ホール 第4会議室  
■当事者とのかわり

個別支援をするときの、当事者との距離の問題や、個人ではなく労福会としてサポートするには何が必要なのかについて、実際の事例を通して考えます。  
多数のご参加をお待ちしています。

■10月8日(土) 10:00~15:00

会場：中央区民センター

(中央区南2条西10丁目)

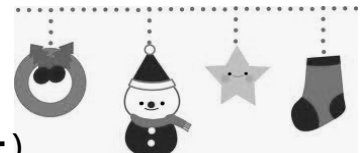
労福会・札幌市・ハンドインハンド 共催

※いつもと会場が違います。お間違いなく。

■11月5日(土) 18:00~20:00

会場：中央区民センター

労福会・札幌市・ハンドインハンド 共催



■12月24日(土)

クリスマス交流会をします！



詳細は未定ですが、当事者もボランティアも一緒にご飯をつくって交流する、共同炊事交流会にする予定です。企画やメニューの提案、当日のボランティアなど、ご協力をお願いいたします。

ありがとうございました！

ご寄付いただいた方々

(2011年5月1日~8月31日)



\* 三浦絹子さん / \* 藤田百合子さん  
\* 楠 高志さん / \* 皆川瑞世さん  
\* 小林幸一さん

会員になってください

野宿問題に関心がある方、何かできることはな  
いかと考えているかた、一緒に活動しませんか。  
ご連絡をお待ちしています。

「ともに生きる」No.23

2011年9月10日発行

北海道の労働と福祉を考える会

発行責任者/嶋田佳広

\* 編集担当 \*

大友 駿/細谷洋子/黒森理恵子

工藤浩美/高田晃太郎/中島杏子

〒001-0010

札幌市北区北10条西1丁目4-1 近藤アパート201

電話 090-7515-8393

090-7515-8393 (相談)

E-mail : info@roufuku.org

ホームページ : http://roufuku.org/

ブログ[sapporo路上通信] :

http://roufuku6029.blog95.fc2.com/